

大学・高専機能強化支援事業
(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)【支援2大学】
事業概要

令和5年7月時点

選定年度	令和5年度	学校コード	F123210106463
大学名	名古屋市立大学	設置区分	公立
学校種	大学	都道府県	愛知県
申請形態	研究科等の設置 (特例枠)		

1. 事業概要

データサイエンスに関する高度専門知識・技術を有し、社会や実務・学術諸課題を解決できるデータサイエンス専門人材を育成するため、令和7-8年度に定員15名/年の修士課程からなるデータサイエンス研究科を開設する。令和9年度には、定員を30名/年に増員した博士前期課程へ改組すると同時に、定員3名/年からなる博士後期課程を設置する。「独立立ちレベル」のデータサイエンティストの育成にむけて、統計学・情報工学の先端的な理論と手法やデータサイエンス応用科目を**コースワーク**として教育するとともに、**実践演習**として一般学生に対しては一定期間のインターンシップ(①企業・行政等、②他研究科・他大学・研究機関のラポインターン、③海外留学等)、社会人学生はプロジェクト演習を実施し、シームレスに**学位論文のための研究活動**に移行できるような教育カリキュラムを編成する。また、本学がモノづくりの企業が背景に多く控える中部地域に位置することや、設置団体である名古屋市および周辺企業からの強い要請があることから、人材育成や教育について**地元自治体・企業との連携**を図っていく。

2.基本情報

大学全体の収容定員数等の変化（予定）

		博士課程	修士課程	大学院計	学士課程
大学全体の情報系組織の収容定員	増員前	0	0	0	320
	増員後	9	60	69	320
	増分	9	60	69	0
大学の全組織の収容定員	増員前	412	359	771	
	増員後	421	419	840	
情報系組織の収容定員の占める割合	増員前	0.0%	0.0%	0.0%	
	増員後	2.1%	14.3%	8.2%	
	増分	2.1%	14.3%	8.2%	

※正規課程の人数

※令和5年5月1日時点

改組・増員前の組織情報

課程		組織名	入学定員	収容定員	改組時期・内容
博士	情報系				
		計	0	0	
	情報系以外				
		計	0	0	
修士	情報系				
		計	0	0	
	情報系以外				
		計	0	0	
学士	情報系	データサイエンス学部	80	320	
		計	80	320	
	情報系以外				
		計	0	0	

※情報系組織の改組・増員に関わる組織のみを記入。コース等で実施の場合はコース等単位で記入。

※学士の入学定員には編入学定員を含む。

改組・増員後の組織情報（予定）

課程		組織名	入学定員	収容定員	改組時期・内容	所在地
博士	情報系	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	3	9	R9設置	愛知県名古屋瑞穂区
		計	3	9		
		改組前との差	3	9		
	情報系以外	計	0	0		
		改組前との差	0	0		
修士	情報系	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	30	60	R7設置、R9増員	愛知県名古屋瑞穂区
		計	30	60		
		改組前との差	30	60		
	情報系以外	計	0	0		
		改組前との差	0	0		
学士	情報系	データサイエンス学部	80	320		愛知県名古屋瑞穂区
		計	80	320		
		改組前との差	0	0		
	情報系以外	計	0	0		
		改組前との差	0	0		

改組・増員後の情報系組織の学位分野（予定）

課程	組織名	学位分野（主なもの6つまで）					
博士	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	理学関係	工学関係				
修士	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	理学関係	工学関係				
学士	データサイエンス学部データサイエンス学科	理学関係	工学関係	経済学関係			

<基本情報>

改組内容：研究科等の設置・増員

情報系組織名：

<修士> データサイエンス研究科データサイエンス専攻

<博士> データサイエンス研究科データサイエンス専攻

情報系組織の入学定員：

<修士> 【R7新設】改組後15名

<修士> 【R9増員】改組前15名 → 改組後30名

<博士> 【R9新設】改組後3名

所在地：愛知県名古屋市瑞穂区

<新設や改組の特徴・コンセプト>

- 数理統計、情報工学、先端的AIについて国際レベルの研究力・高度専門能力を持ち、産業界や行政に貢献できるデータサイエンス実務家・研究者を養成する。
- 実務現場にて働いている人材への再教育の重要性を鑑み、令和7年度に主として社会人対象の修士課程を、令和9年度に博士前期課程へ改組・増員すると共に博士後期課程を設置する。
- 修士課程・博士前期課程では高度専門人材、博士後期課程では業界を牽引できる実務家や研究者養成を目標とする。

<教育内容>

- 統計学・情報工学の理論と手法および情報科学、ビジネス、医療等を主としたデータサイエンス応用科目のコースワーク
- 行政、企業、学術機関でのインターンシップ、社会人学生と一般学生共修によるPBL実践演習
- 社会課題解決あるいはデータ活用のための基礎・先端研究をテーマとした学位論文
- 実務家教員・実務家非常勤講師によるデータサイエンス応用科目
- 本学が令和3年度から認定校となっている「実務家教員養成プログラム(TEEP)」事業との連携

<入学者選抜>

- 統計学や情報工学の基礎的素養と英語による情報収集が可能なレベルを測る学力試験。
- データサイエンス活用への意欲を確認する面接。
- 社会人は、学力試験に代えて実務経験を踏まえたデータサイエンス活用に関する小論文。

<教育研究環境の整備>

サーバー、学生研究室・ゼミ室、オンライン学習支援システムなどを整備する。

奨学金制度、海外学会発表・海外留学の補助金制度により、進学を推奨する

データサイエンス研究科(博士後期) 3名/年

データサイエンス研究科(博士前期) 30名/年

今後大きな需要が見込まれるデジタル分野の人材を年間30人程度育成する。

データサイエンス学部 80名/年

データサイエンス学部 80名/年

データサイエンス学部 80名/年

令和5年度

令和7年度

令和9年度